

はじめに

北海道の人工林の多くを占めるトドマツとカラマツが利用期を迎えています。既に主伐が始まっていますが、森林資源を持続的に利用するためには、不成熟造林地の解消などを目指した再造林を着実に進めなければならず、低コストな施業方法が求められます。

その方法のひとつとして、伐採後に地表付近のササの根系を取り除く「地がき」が以前から行われてきました。地がきで天然更新する樹種はカンバ類（シラカンバ、ダケカンバ、ウダイカンバ）が主で、中でもシラカンバは、近年、加工技術の向上によって材の用途が拡大し、需要が増大しています。しかし、これまで立地によっては、生育不良や成林困難などの事例があり、目標とする森林に確実に導く更新方法と初期保育方法を確立する必要があります。

そこで森林総合研究所北海道支所では、令和元年度から3年度まで、シラカンバを主な対象樹種として、地がきでの更新と初期保育、経営収支を反映した適地判定の各技術の開発や向上に取り組みました。この冊子には、3年間で明らかにした新たな知見や開発した技術を、既に報告されている知見とともに取りまとめましたので、現場での施業に役立てていただければ幸いです。

なお、本プロジェクトの推進にあたり、現地調査などでご協力頂いた北海道森林管理局、森林技術・支援センターおよび各森林管理署ならびに北海道大学雨龍研究林の皆様に感謝申し上げます。

交付金プロジェクト主査 吉田和正